

西部保健所（日田玖珠地域）の感染症情報

2024 第31週（7月29日～8月4日）

* COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の感染状況 *

定点当たり報告数は県内18.66(前週20.78)、西部管内で11.8(前週20.4)となっています。

この定点報告数は、インフルエンザ基準(警報30.0、注意報10.0)を準用すると、**注意報レベル**にあたります。感染者は先週より若干減少しましたが、夏休みに入り、人口密度の高い場所へ行くが増えますので、外出の際は各個人で感染予防を心がけ、帰宅時には、手洗いうがい等を行い、体調管理に努めましょう。

また、陽性者は行動制限がなくなりましたが、**発症後5日間かつ症状軽快後24時間は外出を控えることが推奨**されています。

※詳しい情報は、大分県HPにある新型コロナウイルスに関するお知らせをご覧ください。

健康政策・感染症対策課コロナページ <https://www.pref.oita.jp/site/covid19-oita/>

注意!

* 腸管出血性大腸菌(O157)感染症* 西部管内にて感染者の報告がありました!

この病気は、毒素(ペロ毒素)を産生し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症候群を起こす病原大腸菌が原因で発症します。そのなかでO抗原の157番目に発見されたものがO157と呼ばれます。

【症状】

・感染して4～8日間の無症状期間を経て、激しい腹痛、下痢、頻繁の水様便や血便等。

【主な原因】

・特定あるいは推定された感染源は、井戸水、牛肉類やシカ肉、貝割れ大根、キャベツ、メロン、白菜漬け等

【予防方法】

・腸管出血性大腸菌は加熱や消毒薬により死滅しますので、通常の食中毒対策を確実に実施しましょう。

一人ひとりが意識して感染予防!

* 手足口病が流行中* 県内4.28 警報基準値(5.0) 終息基準値(2.0)

手足口病とは、ウイルスの感染によって起こる、口の中や手足などに水疱性の発疹が出る感染症です。主に子どもが感染する、夏になると増えてくる病気で、感染の約9割が5歳以下の子どもです。

【症状】

- ・口内炎、発熱、倦怠感、悪寒、関節痛や筋肉痛など。
- ・口の中や手のひら、足の甲や裏などに2～3mmの水疱性発疹が出る。

【症状がある場合】

- ・医療機関に受診してください。特効薬はありませんので、症状に応じた治療を行うことになります。
- ・基本的には軽い症状の病気ですが、まれに髄膜炎や脳炎など中枢神経系の合併症などが起こる場合があるので、経過観察をしっかりと行うようにしましょう。

【予防方法】

- (1) 手洗いは、流水と石けんで十分に行う。タオルの共用はしてはいけません。
- (2) 保育所などで便を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- (3) 咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおう等、咳エチケットを心がけましょう。



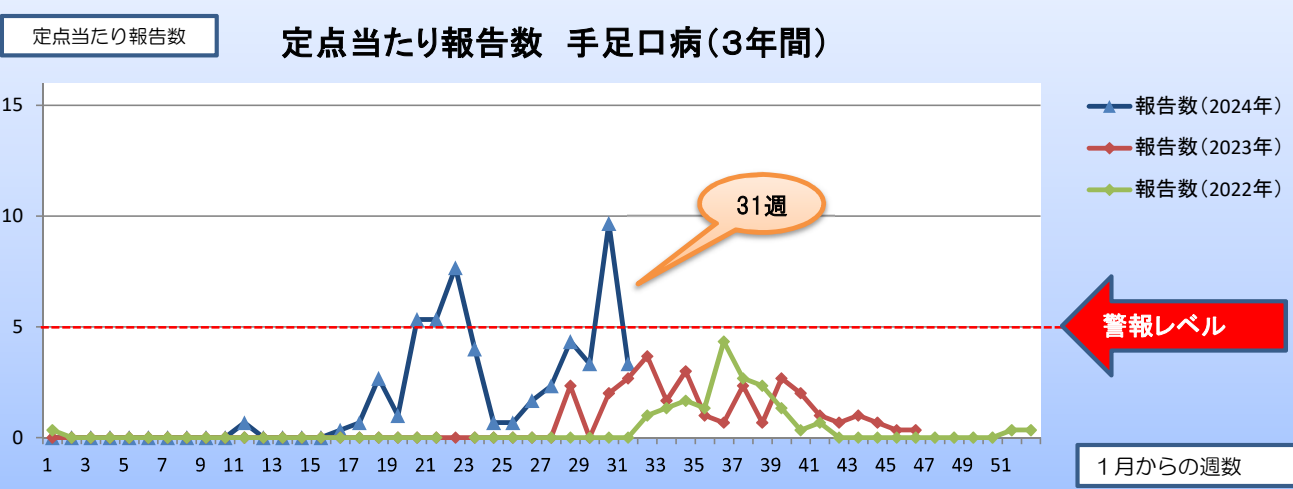
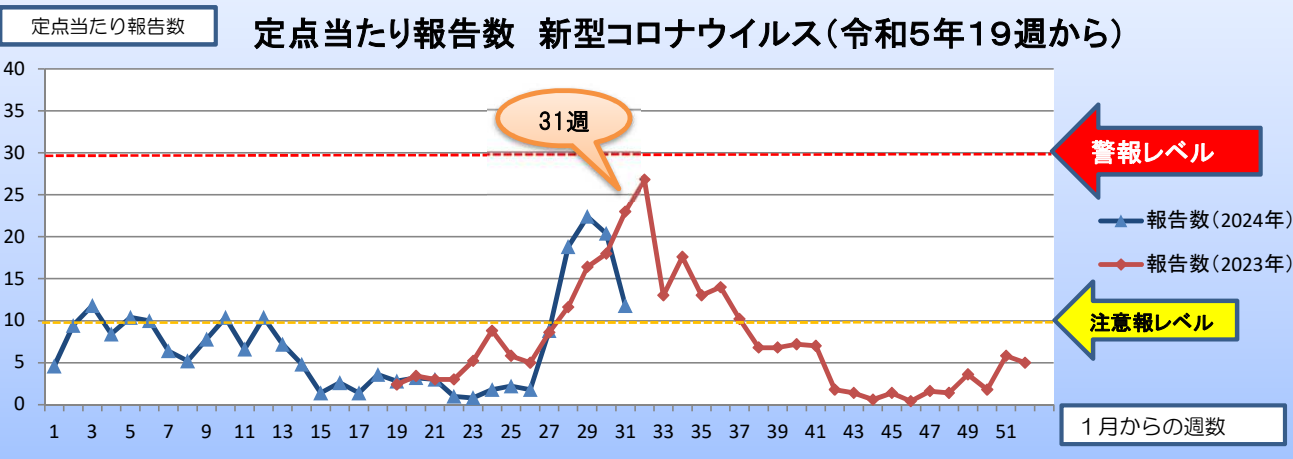
定点報告の結果(西部保健所)

	インフルエンザ			COVID-19	RSウイルス	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(水ぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(りんご病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎(小児科)	麻疹(全数)	風しん(全数)	警報レベル	注意報レベル	
	A型	B型	不明																	
0歳				0.8	1.0	0.3				0.3										
1～3歳				1.2	0.3					2.3		0.3	3.0							
4～6歳	0.2			0.8			0.3			0.7			0.3		0.7					
7～9歳				0.6									0.3		0.7					
10～14歳				1.8											0.3					
15～19歳				0.6																
20歳以上				6.0																
計	0.2	-	-	11.8	1.3	0.3	0.3			3.3		0.3	3.7		1.7					
70歳以上(再掲)	-	-	-																	
前週	-	-	-	20.4		0.3	0.7			9.7		0.3	1.7		0.3					

※西部保健所管内の指定された医療機関から報告された患者数を、1医療機関(定点)あたりに換算して計上しています。

※平成27年第14週から定点数が増えたため、以前のデータと比較する際はご注意ください。

※端数処理のため、合計と年齢ごとの数値は一致しないことがあります。



警戒・注意報のレベル基準値

疾患名	警戒レベル		注意報レベル 基準値
	開始基準値	終息基準値	
新型コロナウイルス	30	10	10
手足口病	5	2	

※大分県では、新型コロナウイルスのレベル基準値は、インフルエンザ基準値を準用しています。

なお、基準値はすべて定点当たりの報告数です。また注意報の「斜線」は対象としないことを意味します。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に数居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる可能性がある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

